

日本フィル「被災地に音楽を」

訪問コンサート レポート 第 40 号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月からはじまり、2018年10月現在、通算253回となりました。



訪問地

2018 年 5 月 23 日 宮城県 石巻市

川の上 百俵館

5 月 24 日 雄勝ローズガーデンファクトリー / あとりえ DaDa

5 月 25 日 こーぷのお家石巻

訪問メンバー

ヴァイオリン	佐藤駿一郎 武田桃子
ヴィオラ	中川裕美子
チェロ	大澤哲弥
クラリネット	照沼夢輝

川の上 百俵館 (5/23)

津波で甚大な被害を受けた大川地区・雄勝地区の人々の多くが集団移転している石巻・川の上地区に、学びの場として開設された百俵館。ここに弦楽四重奏とクラリネットを訪れ、2回目の今回は特別プログラムを組みました。近くの二俣小学校6年生児童6名が、「河北の春」をテーマに地域の自然や春を思い浮かべて詩を創作し、代表の1名が朗読。続いてすぐに日本フィルがヴィヴァルディの＜春＞を演奏するというコラボレーションをしました。地元愛を感じさせる詩の内容で、会場からは非常に暖かい拍手が送られました。



ウェーバーのクラリネット五重奏は技巧的でクラリネットの音色と特色が存分に発揮された演奏で、拍手喝采でした(この曲目は全日程で演奏いたしました)。

地域の憩いの場としてすっかり定着してきた「百俵館」。その隣に建てられた「耕人館」は、子どもたちからの「自主学習の場がほしい」という強い希望にこたえて今年4月に作られました。今回は「耕人館」と「たねもみ広場」のオープニングを記念する公演でした。

英語や数学を教える「寺子屋」が週に3回開かれており、子どもたちが元気に通っています。全国学力テストで宮城県の成績が低迷する中、関わる方々は子どもたちが集中して勉強できる環境を作ろうと尽力されていました。

雄勝ローズファクトリーガーデン (5/24)

石巻市の中でも被災が大きかった地域の一つ、街が跡形もなく津波で消えてしまった雄勝地区に忽然と西洋風のローズガーデンが現れました。震災後、花を植え、庭をつくることが被災された方とボランティア団体を結ぶことにつながり、そこから発展した「雄勝ローズファクトリーガーデン」。今回は、道路工事のため元々あった場所から現在の場所に移転し、リニューアルオープンを記念する公演でした。



演奏場所はローズファクトリーガーデン内にある野外の特設ステージで、直前まで天候の問題で屋内に移すかどうか判断が難しかったのですが、最終的に開演30分前の天候で判断ということになりました。主催者の徳水先生の「晴れます！」という言葉通り開演中は晴天でした。

終演後はグループに分かれお客様やスタッフの方とお茶会をして、それぞれのお話を伺いました。近隣の高台の復興住宅に移り住んだ人たちが「久しぶり！」と声をかけながら次々と集まり、今はそれぞれ遠い場所に移ってなかなか会えないけれど、こうしたイベントで顔を会わせるのが嬉しいと仰っていました。



あとリエ DaDa (5/24)

旧北上川の河口ちかく、川辺りにあり被災も大きかったこの地域で、当時人が集まる場所としていち早く再開したのが「川べりの散歩道 あとリエ DaDa」でした。オーナーは画家の三浦さん、お嬢さんの武田さんがダンス教室を開いています。現在は立て替えられ、モダン・バレエやコンサートの稽古、発表の場となっています。

こちらへは震災直後から訪問しており、今回で3回目となります。クラリネットとフルートの吹奏楽部生徒、そしてモダン・ダンスを習う中高生10人とそれぞれ共演をするなど盛り沢山の内容となりました。関係者からは、「夢が叶った」との言葉もあり、会場は非常に熱気に包まれました。



熱心に指導する佐藤先生



音楽は<冷静と情熱のあいだ>

こーぷのお家石巻 (5/25)

今回で5回目の訪問となった、石巻の住宅街にある「こーぷのお家石巻」。ここでは、高齢者のデイサービスやさまざまなレクリエーション活動を通じ、地域とのつながりを培っています。前回訪問の際、近隣にあった仮設住宅は別の場所の復興住宅へと変わり、取り壊されていました。施設所長によると一度別の仮設住宅に集められ、そこから復興住宅へと移る方々もいるそうで、仮設住宅でできたコミュニティがバラバラになってしまったそうです。よく準備された環境で、演奏者も落ち着いてリハーサルと本番に臨みました。入場者数は、当初は50名位の想定でしたが、実際は80名を超える方にお越しいただき、非常に暖かみのある公演となりました。また、南部や気仙地域の民謡を演奏したところ、口づさむ方や、「懐かしい」と言って涙される方もいらっしゃいました。



東日本大震災から7年が過ぎるなか、列島各地で被害をもたらす地震や豪雨により、あらためて自然災害への恐ろしさを痛切に感じた人も多いのではないのでしょうか。その一方、被災地ではインフラ整備や住宅再建などのハード面の復興が進むなかで、防災集団移転などにともなうコミュニティづくりや被災者の心のケアといったソフト面の課題が今後の長期的な課題といえ、こうした問題は、私たちが活動を取り組む石巻市・川の上地区においても同様のことがいえます。

そうしたなかで、2年前の2016年11月1日、川の上地区のコミュニティ・スペース「川の上・百俵館」にお越しいただいた日本フィルハーモニー交響楽団の皆さんが、あらためて今年、5月23日に百俵館にてコンサートを開催していただいたことは、地域に沢山の感動をもたらしました。当日、会場にはコンサートを心待ちにしていた観客が押し寄せ、バックヤードから椅子をかき集めても足りない来館者で、会場は沸き立ちました。

またコンサートには、事務局の富樫さんと及川さんの大変暖かい申し出により百俵館に程近い二俣小学校の6年生の児童6名がご一緒させていただき、児童が創作した地域の自然と春を思いにした詩の朗読を背景にしながら、弦楽四重奏によるヴィヴァルディの「春」が演奏されました。子供たちの雄姿が、その家族のみならず地域の大人たちの気持ちを大いに奮い立たせたのは言うまでもありません。演奏者と聴衆の心の距離が近づいたことで、会場はとても心地が良い温かな気持ちで包み込まれました。

私たち石巻・川の上プロジェクトの取り組みは、地域住民が集まり、お互いを知るための「きっかけ」をつくることを目標としていますが、その先には、地域住民がお互いのことを理解し、温かなコミュニティを構築することがあります。その和やかで温かな機会を提供していただいた日本フィルハーモニー交響楽団の皆さんに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、音楽がもたらす奇跡を信じて、活動を細く長く地道に取り組んでいきたいと思えます。

一般社団法人石巻・川の上プロジェクト運営委員長

杏林大学総合政策学部准教授

三浦秀之（石巻市川の上地区出身）



※2015年の百俵館に続き、今年、耕人館とたねもみ広場も
2018年グッドデザイン賞を受賞しました。

今年4月に完成したばかりの
「耕人館」と「たねもみ広場」